**原子力災害の記憶構築**

**～福島のミュージアムの展示のあり方を検討する**

主発表者：村本　邦子（立命館大学）
連名発表者：河野　暁子（立命館大学）

メモリアル・ミュージアムは、コレクティブ・トラウマとなるような歴史的出来事についての記憶構築に関与する重要な装置のひとつである。企画者らは、時間をかけて展示を練り上げてきたチェルノブイリ国立ミュージアムを参照しながら、福島にある関連施設が原子力災害を巡る集合的記憶をどのように扱っているのかを検証してきた。ワークショップでは、これまでの研究結果を紹介するとともに、福島のミュージアムが、原子力災害のコレクティブな記憶の構築という役割を果たすべく、多様な声を取り入れ、対話に開かれたフォーラムにしていくために何が必要なのかをみなさんと一緒に考えてみたい。